

旅行

観光・ホテル

ブロードウェイ

NYイベント

語学学校

各種学校

レストラン

お店

不動産

人材

病院

美容・健康

専門・サービス

メディア・通信

[戻る](#)

週刊NY生活

NY生活プレス社

No.96 2005年12月
29日Pg. 1

教育と楽しいニューヨーク生活を応援します。

Beauty

綺麗を贈る

メーキャップ・ボランティア

ここでは、マンハッタンのアッパー・ウエスト・サイドにある高齢者施設「ジュエイッシュ・ホーム・アンド・ホスピタル」。日本人のボランティアたちが訪れてメーキャップのお手伝い。いくつになっても、女性は美しくありたいと思うもの。この施設に入居して3か月目というジュディー・ハンディーさん(82)は、メークの後、「生き生きした気分よ。なんだか外に遊びに行きたくなったわ」。笑顔に、若さと喜びと誇りがあふれた。(文・大塚良美、写真・石川諭、36面に関連記事)

「気分は最高よ。この色、私に似合うでしょ？」と、ローズ・リビーンさん(96)の顔に、若さと喜びと誇りがあふれた。日本人の非営利団体「ニューヨーク・デ・ボランティア」(日野紀子代表)が12月11日、アッパー・ウエスト・サイドにある高齢者施設「ジュエイッシュ・ホーム・アンド・ホスピタル」でメーキャップのボランティアを行った。同施設内の図書室がこの日、賑やかなメーキャップ・ルームと写真スタジオに早変わりした。プロのメーキャップ・アーティスト9人を含む約25人のスタッフが、女性入居者約30人に化粧、ヘアセットなどを施し、プロの日本人カメラマンが記念撮影をする。

最初は固い表情のリビーンさんだったが、メークが終わると生き生きと輝いた笑顔に。担当した大草理恵子さん(25)も、「メークを通してこんな風に米国人と交流できるとは思いませんでした」とやりがいを見せる。大草さんは、メークの勉強のため昨年、来米したばかり。当初はファッション界で活躍するのが夢だったが、「モデルにメークをしても心から感謝してくれることはあまりありませんが、ここでは、みなさんが喜んでくれます。自分の仕事がこのように役立つことが分かり、よい経験になりました」と語る。

化粧をしながら直接肌 部屋では、約10人が同時にメーク、ヘアセット、マニキュア、ハンドマッサージを行っている。メークを施すボランティアは、20代から30代の日本人、メークをする相手は、車いすに座った60代から90代の女性。

